

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016/3/9

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ講座 准教授
氏名 Name	小森 淳子
専門分野 Academic Field	アフリカ言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ニジェール・コンゴ語族における動詞構造と統語に関する類型論的研究
今年度が最終年度である科研費による基盤研究（C）「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造と統語に関する類型論的研究」（課題番号 25370477、研究代表 小森淳子）の課題を中心に研究をおこなった。この研究の目的は、アフリカ最大の語族であるニジェール・コンゴ語族の動詞および動詞を中心とする統語構造に関する類型論的特徴を明らかにすることである。スワヒリ語を中心とするバントゥ諸語、ヨルバ語、バンバラ語を分析対象として、動詞の形態的、統語的分析をすすめた。バントゥ諸語はその膠着的な性格により、動詞の派生形が統語関係に大きく関係してくる。また逆に、孤立語的なヨルバ語はバントゥ諸語が派生形で表すような統語関係を「動詞連続構文」で表すことが特徴的である。またバンバラ語は、この語族の中では少数派である SOV の語順をもち、文法的にも他の語派とは異なる特徴を有している。動詞の TAM 標識や後置詞や前置詞、その他の文法標識がよく発達しており、関係節や態の現れ方も特徴的である。 今年度は特に、バンバラ語とヨルバ語の構文分析に焦点をあてた。バンバラ語では動詞の TAM 標識や後置詞や前置詞、その他の文法標識について見直し、また受動態の特徴や他動性について考察した。 ヨルバ語に関しては、その統語構造にとって最も重要な動詞連続構文に関する分析をおこなった。特に、AA 研で行っている共同研究の「イベント統合のパターン」という視点から、ヨルバ語の動詞連続構文の特徴を見直し、「枠組み」動詞と「付随」動詞の関係、また動詞の文法化の傾向などについて考察した。その成果については、“Event Integration Patterns in Yoruba”（『アジア・アフリカの言語と言語学』10 号、AA 研究所、近刊）に著した。	